

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	馬込ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人講師が週2日来園し、英語で子どもたちと接してきました。レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、園児に寄り添ってきました。このように当園では、英語が園児にとって身近な興味となっていることから英語のみならず、韓国語、マレー語などの他言語や普段話している日本語も含めて「ことば」をテーマとして設定しました。



2. 活動スケジュール

【問い】乳児が、週2日來園する英語講師が自分たちに話しかけることば（英語）と保育者や保護者が発することば（日本語）とを区別しているのだろうか？

【流れ】英語講師の來園日には、英語の歌を歌ったり、英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語絵本の読み聞かせをする際、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語ということばを共有します。発話が難しい乳児も日本語、英語の音を聴きことばを共有します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

* 読み聞かせ：英語絵本は外国人英語講師が読み聞かせ、日本語絵本は保育者が読み聞かせます。

* 歌：英語の歌は外国人英語講師が歌を歌い、日本語の歌は保育者が歌います。

* 手遊び歌：英語の手遊びは外国人英語講師が英語で行い、日本の手遊び歌は保育者が行います。

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】英語講師の來園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じ作者の日本語と英語の絵本：エリックカールの「はらぺこあおむし」と"The very hungry caterpillar"

* 同じ手遊び歌の日本語バージョンと英語バージョン：「グーチョキパーでなにつくろう」と"Rock scissors paper finger play"

* 同じメロディの日本語の歌と英語の歌：「きらきらぼし」と"twinkle twinkle little star"



4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「はらぺこあおむし」日本語絵本の読み聞かせ

* 1歳児クラス：保育者が「はらぺこあおむし」の絵本を日本語で読み聞かせる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

絵本がでてくると、興味を示していた。食べ物がたくさんでてくる場面では、「りんご」を見ると食べる動作をする子が多くいた。「いちご」の数を指さして数える子もいた。土曜日に食べたものの場面では、保育者と一緒に知っている言葉を発したり「アイス」「バナナ」……食べたものを順番に指でさしたりしていた。あおむしが太って大きくなる場面を見ると「わ～」と口を大きく開ける仕草も見られた。蝶になった場面ではみんな大喜びになり絵本に近くにきて両手をバタバタしながら動く子が多くいた。また、英語講師が手で蝶を作ると一緒に真似ようとしていた。



4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①"The very hungry caterpillar（はらぺこあおむし）"英語絵本の読み聞かせ

* 1歳児クラス：英語講師が英語で"The very hungry caterpillar（はらぺこあおむし）"を読み聞かせる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語の歌を覚えていて、最初の頃より歌が始まると振付けをするようになった。英語版「はらぺこあおむし」は真剣な顔見ている子、飽きてしまい寝転がる子といた。慣れ親しんでいる絵本だったので、興味はもっていた。数名の子どもは、「hungry」と講師が言うと真似して「hungry」と言っていた。最後の蝶の場面では、蝶にタッチしにいき楽しんでた。言葉の真似ができるようになり「T h a n k y o u」など真似て発語していた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】子ども達が大好きな絵本なので、日本語の読み聞かせでは次にどんな場面になるかを覚えている。蝶になると真似して動く子どもが多くいた。一方英語では慣れ親しんでいる絵本だが、ことばがいつも聞いている言葉ではなかったため、飽きてしまう子どもが多かったように見えた。

【次回への問い】絵本ではなく、素材を変えて例えば手遊び歌だったら子どもたちは日本語でも英語でも同じように楽しめるのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>②「ぐーちょきぱーでなにつくろう」日本語で手遊び歌を歌う

* 1歳児クラス：保育者が日本語で手遊び歌を歌いました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「ぐー・ちょき・ぱーで何を作ろう」の呼びかけに保育者の動きを真似してぐーやちょきやぱーを真似して手を出していた。

右手はぐーで左手もぐーで「アンパンマン」になると、子ども達は大喜びとなり「アンパンマン」と何回も言いながら頬にぐーの手を左右にあてながら笑顔で英語講師や保育者へ見せアピールしていた。



4-②. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>②"Rock scissors paper finger play(ぐーちょきぱーでなにつくろう)"英語で手遊び歌を歌う

*1歳児クラス："Rock scissors paper finger play(ぐーちょきぱーでなにつくろう)"英語で手遊び歌を歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師の歌に合わせて身体を揺らしリズムをとる子が多くいた。また、グー・チョキ・パーの手遊びは好きなため、楽しんで行っていた。

英単語「Buttefly」は「ちょうちょう」と言う子が多くいた。「Buttefly」が「ちょうちょう」は同じと理解はしているが英単語で言うのはまだ難しそうだ。

グーとグーで「アンパンマン」は言えていた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】手遊びの「グーチョキパー」は好きな手遊びで行うことも多くあり特にグーとグーで「アンパンまん」がお気に入り、違うものをだしても「アンパンまん」の真似をしていた。英語だと言葉がまだわからない子が多くいるためジェスチャーで示すと一緒になり行っていた。「Buttefly」の英単語は言いやすいのか「バタフライ」と発音していた。

【次回への問い】馴染みのある英語歌"Twinkle twinkle little star"を歌うことで子どもたちはどのように反応するのだろうか？

4 -③. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>③"Twinkle twinkle little star(きらきらぼし)"英語で歌を歌う

*1歳児クラス：英語講師が"Twinkle twinkle little star(きらきらぼし)"英語で歌を歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

聞きなれた曲だったので、英語講師の真似をしながら手の振り真似をしたり、「Twinkle」「Star」という英単語を高月齢の子ども達は英語講師と一緒に口ずさんでいた。また、天井に☆があることを英語講師にも上を指さし教えてくれる姿も見られた。また、手で星を形どることに興味をもち上手にできていた。



4 -③. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>③「きらきらぼし」日本語で歌を歌う

*1歳児クラス：保育者が日本語で「きらきらぼし」を歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「きらきら星」は子ども達が知っている歌なので、リズムに合わせて身体を動かし保育者の真似をして手を「きらきら」させていた。

歌を口ずさむ子もいた。きらきらひかる～♪おそらのほしよ～♪とここのフレーズは好きで楽しそうにうたっていた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語だと歌も覚えている子が多く英語より親しみがあり、ジェスチャーをしながら上手にできていた。「まばたきしてはみんなを見てる」のフレーズは難しく雰囲気口ずさんでいた。英語での歌では初めはじっとしている子ども達だったが何回か歌ううちにリズムをつかみ英語講師を真似ながら楽しく行い、「Star」は発音していた。1歳児クラスではすでに日本語と英語の区別ができているように見え、日本語の方により親しみを持っているようだ。

【次回への問い】当園では週2日ほぼ終日英語講師が在園するので、日本語が発達していく中で英語もどのように発達していくのか観察したい。